



S.Spitz GmbH社の 用途事例



オーストリアの食品メーカーである Spitz社、ビデオジェットの印字 ソリューションにより、印字品質の 向上とコスト削減に成功

1857 年以降、伝統と品質への飽くなき
こだわりを基本理念として、Spitz社は
食品の製造、販売における技能を磨い
てきました。

ジャガティー、スピッツフリッツアンテ、オレンジパンチ、パン、ケーキ、
クッキー、フルーツジャム、マヨネーズなどを製造し、700 人の従業員を
擁するこの企業は、オーストリア国内市場で「最も信頼のおけるブラン
ド」の 1 つに挙げられるだけでなく、世界中の多くの国にその製品を長
年輸出してきた実績があり、年々その範囲を広げています。

オーストリアのこの食品メーカーは、ビデオジェットの印字ソリュー
ションを選択しました。統合された操作およびサービスのコンセプトと
組み合わせることで、信頼性が高く、最高品質の印字を提供できるから
です。



「設計や設置段階からアフターケアまで、ビデオ
ジェットは一流のコンサルタントとサポートを提供
してくれています。」

Günter Heimbuchner 氏、
S.Spitz社、物流および技術購買責任者



Spitz社の中心となる事業部門は、同社のブランドの方向性を正確に表しています。「飲料品」ポートフォリオは、アルコール飲料だけではなく、フルーツジュース、ソーダ、スポーツドリンク、子供向け飲料で構成されています。「菓子およびパン、ケーキ、クッキー」部門では、日持ちのするものだけでなく、焼きたてのパン、ケーキ、クッキーなども扱っています。「スイート & サワー」部門は、さらに広範な製品を取り扱っています。フルーツジャム、ゼリーやフルーツ味の菓子、マスタード、ケチャップ、マヨネーズ、(サラダ) ソースなどです。ごく最近、Spitz社の食品部門では総売上高約 2 億 5 千万ユーロを達成しました。そのうち輸出シェアは 50 % を若干下回るくらいです。



左から:Markus Pihan 氏、Günter Heimbuchner 氏、Hubert Doppelhofer 氏、Bernhard Halbartschlager 氏、Martin Dvorak 氏

Spitz社が取り扱う製品は量、種類とも多いため、包装およびラベルの費用は大変高額です。全部門の近年の印字操作回数は、年間 8 億～9 億回でした (飲料品およびパン製造部門で最高値)。

特に傷みやすい食品の部門では、印字の品質と、それに伴う製品のトレーサビリティ (前方および後方) は最も重要です。したがって、各製品の生産ラインのプリンタとインターフェイスは、効率を最大化するように設計されている必要があります。ここで、Spitz社は最近、同社の高い水準を満たすことができないという問題に直面しました。

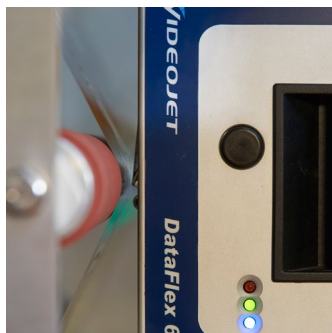
さまざまな原因がありますが、主な原因は一連のプリンタの使用年数と機器構成です。使用年数に関しては、機器のほとんどが優に 10 年を越えています。最近では、製造施設で約 10 種類のラベリング装置が使用されていました。この状況は、仕様面、技術面とも現在のニーズから大きく遅れています。また、会社のメンテナンスおよびサービス要件は、完全に組織化されたプロセスフローの理想とはもはや一致していませんでした。

2012 年と 2013 年に、印字システムの再編成および再設置を行う必要性がますます高まりました。システム全体の複雑さとメンテナンスおよびサービス作業の増大を、できるだけ早く軽減しなければならなかったのです。新しい印字コンセプトの要件は、満足とは言えない現状と、新しい技術的機会 (インダストリー 4.0 におけるネットワークの向上など) から浮上しました。

Spitz社では次のことを意味します:

1. 新しいプリンタは、現在の状況に適合するように技術的に更新されている必要があります。これには、プリンタや印字品質だけでなく、機器の消耗 (最大限経済的であること) や、技術的に最適なネットワーク化機能も考慮されます。
2. 理想的には、新しいラベル装置群は、プリンタの種類やモデルに従って、Spitz社製品が求める高レベルの印字要件にすべて適合するように構成されることが望まれます。
3. 運用に関連して発生するメンテナンスおよび (小規模な) 修理作業をオペレーターができる限り行えるようにして、貴重な技術者の時間を節約することも望まれました。





4. 重視されたのは、あらゆる状況でプリンタを迅速かつ容易に交換できることでした。Spitz社では、生産ラインは異なるシフト制で行われる場合があります。これも、プリンタの交換の際に考慮する必要がありました。

5. 一般に、メンテナンスおよびサービス分野における最適供給体制は、Spitz社にとって大きな役割を果たしていました。鍵になる要因は、機器全体の稼働率の最大化でした。つまり、交換や修理など、印字装置に起因する制限をできる限り低く抑えることが鍵になります。

6. 設置されたプリンタの種類やモデルは高スペックでしたが、異なる印字装置も容易に操作できるように、ユーザーインターフェイスの標準化も可能な限り行われました。

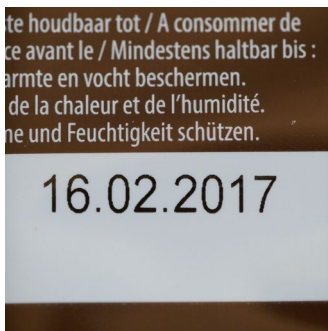
操作標準化のコンセプトの要件は、新しい印字コンセプトの提案を評価するうえで、特に重要な役割を果たしました。Spitz社の物流および技術購買責任者 Günter Heimbuchner氏は次のように説明します。「過去の経験から、個々の生産ラインに特化した機能用に設計された単一の印字ユニットは、あまり役に立たないことがわかっていました。私たちに必要なのは、そうではなく、柔軟に作業ができて、将来のニーズも満たすことができるような、すべての製品要件をカバーする包括的なコンセプトでした」

正しいコンセプトの選択が何より重要でした。つまり、「可能な限り整合性がとられた機能システムとの相乗効果を達成し、生産ラインの支出を削減できるかどうか」です。将来のパートナーを選択するうえで、中長期のコストと時間の節約は、購入および設置にかかる費用が最低の機器を選ぶことよりも重要でした」と Heimbuchner氏は言います。同社の選択が正しいことが実証されます。

「高い品質と稼働率を両立しなければ、競争上の優位性を長期的に得ることはできないでしょう」と Heimbuchner氏は続けます。

「まさに当社が求めていたものでした。
当社製品の印字の品質強化、労力、コスト、
時間の長期的な節約が実現しました。」

Günter Heimbuchner 氏、
S.Spitz社、物流および技術購買責任者



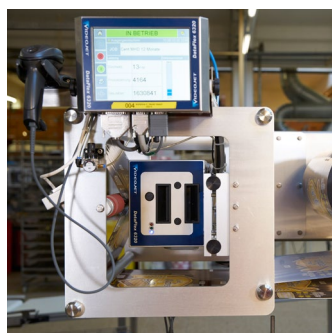
「一貫した全体的コンセプト」という主たる基準は、結局、ビデオジェットに有利に働きました。

「私たちは特に、異なる種類のプリンタを接続するためにビデオジェットが採用している操作標準化のコンセプトが気に入りました」と Heimbuchner 氏は言います。

産業用インクジェットプリンタ（小文字用）、サーマルインクジェットプリンタ、産業用サーマルプリンタ、レーザーマーカーのいずれであっても、「オペレーターガイダンスを一度把握すれば、他のビデオジェットまたは Wolke プリンタに簡単に応用できます。当社は、生産現場で従業員の配置が頻繁に変わるため、これは大きなメリットです」

操作標準化のコンセプトの利点をフルに活用するためには、お客様が持つさまざまな仕様のそれぞれに対応する、差別化された製品群が必要です。S.Spitz社の場合、この全部門の製品群は58の機器で構成され、「パン、ケーキ、クッキー」と「飲料品」が特に重視されています。この点でもビデオジェットが最適なパートナーであることが証明されています。

「私たちの基準は“正しい製品に正しい印字を”です」と Heimbuchner 氏は言います。「この点でとりわけ私たちにとって重要なのは、用途ごとに最適な技術を選択することでした」



実際には、まず、産業用インクジェットプリンタ（小文字用）（それまでのプリンタ群はこれだけで構成）は、缶や瓶やペットボトルなど、そのタスクを最適に実行できる場所で引き続き使用することにしました。一方、厚紙製のパッケージへの印字には Wolke by Videojet のサーマルインクジェットプリンタが生産ラインに統合されました。同様に、明瞭なバーコードを作成できる産業用サーマルプリンタは、パン、ケーキ、クッキーなどの袋に印字するときなどに利用されます。黒色のフタに白色のラベルを貼り付ける単一の要件には、単一のレーザーマーカを使用することで最適な対応を実現しました。

用途ごとに適したプリンタで構成するこの利点は、2015 年の春から秋にかけて行われた段階的な機器導入の後、すぐに明らかになりました。Heimbuchner 氏によると、印字品質は一貫して高いものでした。それ以降、印字品質の低下が原因の、大きな損失を招くリコールは一件も発生していません。品質に関して、S.Spitz社は、産業用インクジェットプリンタ（小文字用）からサーマルインクジェットプリンタや産業用サーマルプリンタへ移行したことに特にメリットを感じています。驚いたことに、プリンタの種類が増えたにもかかわらず、ソフトウェアに起因する複雑さが低減され、印字レイアウトは今では、以前の 100 から 70 に削減されています。

印字品質と並んで、ラベルプロセスの効率も新しく確立されたコンセプトにより向上しました。停止時間が最小限に抑えられ、製造施設自体の稼働率が向上しています。

メンテナンスおよびサービス部門の人員も再配置されました。これが可能になったのは、「総合あんしんケアパッケージ」によって、この部門で発生するタスクが広範囲に軽減されたからです。これにより、Spitz社はビデオジェットとの 7 年間のリース購入契約期間、保護されることになります。これには機器の導入に加えて、サービスと消耗部品の供給が含まれます。サービスと消耗部品の供給により、サービス時間を使用初年度から削減できます。総点検の間隔は、4,500 稼働時間から 14,000 稼働時間まで延長されました。これまでのところ、技術者が修理やメンテナンスに費やす時間は、1 時間未満です。

「これまでのところ、」と Günter Heimbuchner 氏は続けます。「ビデオジェットと Wolke の機器への信頼は、まったく損なわれていません」「設計や設置段階からアフターケアまで、ビデオジェットは一流のコンサルタントとサポートを提供してくれています。当社担当のサービススタッフは大変意欲的で、有能です。

私たちは結果に大変感銘を受けています。プリンタ稼働率の最大化に基づいたコンセプトは、施設全体の稼働率に間接的な影響を与えています」と Heimbuchner 氏は語ります。「まさに当社が求めていたものでした。当社製品の印字の品質強化、労力、コスト、時間の長期的な節約が実現しました」



TEL: **0120-984-602**

E-mail: **info@videojet.co.jp**

URL: **www.videojet.co.jp**

ビデオジェット社

〒135-0064 東京都江東区青海 2-5-10

テレコムセンタービル 西棟 6F

© 2016 Videojet Japan — All rights reserved.

ビデオジェット社は常に製品の品質向上をめざしており、お客様への予告なく設計や仕様を変更する場合がありますので、ご使用に際しては最新の情報をご確認ください。

 **VIDEOJET®**